

朝の光さんさんと



教育随想

愛知県立岡崎東高等学校

校長 竹内 道治 氏

朝の光さんさんとく中学生として、教育実習生として、保護者としてお世話になった母校の校歌である。今でも口ずさんでしまう私の生涯で一番歌った歌でもある。小中高大の母校や勤務した学校の校歌をいろいろな機会であうことがあるが、そのたびに元気が出て、勇気が湧いてくる。

前任の岡崎商業高校で学校設定科目「岡崎学」を開設するにあたり、その前年度に「課題研究」の講座で「岡崎学」で何を学習するかについて生徒と考えている中で岡崎市内の校歌の歌詞を調べたらという意見が出た。

校歌に出てくる山と川をめぐる、村積山、天神山、吉祥山、段戸山、本宮山、桑谷山、扇子山、牛乗山、高根山、丸山、三ヶ根山、京が峰、羽角の山、御嶽、アルプスなどがあり、揚げば夢も望みも喜びも湧いてくる。乙川、

竜泉寺川、矢作川、青木川、伊賀川、男川、保久川、夏山川、巴川、大平川、鉢地川、菅生川など、ふるさとの川止まず流る。鬼まつり、みかげ石、竜城、工場の煙などの文化・産業も歌詞に登場し、ふるさとの文化・風土にも誇りをもてる。

世界にあすへかけて行く、宇宙への眼ひらかん、我等は時代のさきがけなど広い視野から語りかけたり、いつもやさしいこころを持つと、こころ明るく照らし合ひ、力いっぱい鍛え合ひ、探求は知性をみがくなど豊かな人間性と「知・徳・体」を育むことを語りかけたりする。

時に、精いっぱい遊びようよ、今日も楽しくきそう庭、たゆまぬ努力やりぬくなかま、師弟の愛も和やかに、親のねがいを受けついで、共に笑顔ではげもうよと呼びかける。



楽しい、うれしい、明るい、みんなの、われらの学校の校歌を憧れ響く歌声で青空高く歌うことで、自己肯定感、自己効力感、共感力、回復力などの非認知能力を引き出すと言ったらい過ぎでしょうか？

(たけうち みちはる)



令和6年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知県立岡崎東高等学校
校長 竹内 道治 氏
- この人に聞く…………… 2
三河仏壇振興協同組合
理事長 永田 浩三 氏
- 羅針盤…………… 2
井田小学校
校長 牧野 守
- ふれあい…………… 3
広幡小学校
教諭 内田 敏明
- 特集…………… 4
学校保健委員会
— 子供を取り巻く諸問題に対応した各校の取り組み —
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
ピアノ開鍵式(昭和59年)
- この本を…………… 8



感謝の心を育む場

三河仏壇振興協同組合 理事長

永田 浩三氏

日本書紀によると、西暦六八五年三月二十七日「諸國（くにぐに）の家毎に仏舎を作り、即ち仏像と經とを置きて礼拝供養せよ。」との勅令が天武天皇のもとに發布され、以来仏壇を拜むようになったと言われている。今一度「手を合わせる文化」について学びたく、永田氏を訪ねた。

— 日本人の生活に仏壇はどのように定着してきたのですか —

勅令が發布される以前は、ご本尊様を寺で祀（まつ）っていたと考えられています。それが、天武天皇の詔（みことり）によって、各家庭に仏壇として置くようになりました。当時は、質素で小さなお社のようなものでした。それがだんだんと全国に広がり、土地の風土に合った様式に変化していきます。そこに、職人

たちの技術向上が重なって、今日の仏壇へと変化していきました。ご本尊様に手を合わせるという考えが日本人の気質に合っていたのでしょう。— 仏壇を置く家庭が減っていることについてはどう思いますか —

本来仏壇は、一家に一基あってほしいと思います。神様に感謝するために神棚を用意するのと似ています。しかし、多くの方は亡くなった方を祀るものだと思うのではな

いでしょうか。仏壇は本来ご本尊様に対して手を合わせるものですが、大切なことは「なぜ」手を合わせるのかということ。私は『感謝』を伝えるためだと考えています。仏壇を置かない家庭が増えたという事実より、人々が手を合わせる文化が減っている。つまり、『感謝の心を育む場』が減っているということを私は危惧しています。

— 感謝の心を育む場ということについて、教えてください —

感謝の心を育むということは、命の尊さに気づくということだと思います。今日も、私たちは「生きていく」のではなく、多くの命によって「生かされている」という有難さに気づくべきでしょう。例えば、「いただきます」と毎食手を合わせることも仏壇に手を合わせることに同じです。ところが、有難さに気づけず、疎かになっていることはないでしょうか。さらに核家族が進み、家族が揃って落ち着いて命の尊さを語る場面がひと昔前より減っていると思

います。そうして、命の尊さに気づく機会が減ることで、命に対する感覚を鈍らせていくのではないのでしょうか。昨今の、耳を塞ぎたくなるような残酷なニュースは、このことと因果関係があるような気がしてなりません。今一度、手を合わせる文化の価値に気づき、「生かされている」命について考えてほしいと思います。— 岡崎の教員にメッセージをお願いします —

三世代が同居していた頃は、多くの家庭に仏壇があり、祖父母が手を合わせる様子を見て、子供が手を合わせていました。それにより、自然と感謝する心が育まれていたと思います。核家族が進む今日、それに代わる価値を親がどれだけ子供に伝えられるかが大切です。また、学校現場の皆様も、手を合わせる行為にとどまらず、その真の価値を丁寧に伝え、何に感謝をするかという真意まで子供たちに考えさせてほしいと思います。子供たちが命の尊さに気づく機会が増えれば、自他の命を傷つけることも少なくなるはず。互いのことを思いやれる温かい日常を築くためにも、感謝の心を育む場を大切に守ってほしいと切に願います。



氏名 ながた こうぞう
生年月日 昭和四〇年九月十四日
住所 岡崎市明大寺町



プラマイゼロからプラスに

井田小学校

校長 牧野 守

四年前、児童数約五十名の恵田小から、二十三倍の本校へと異動した。「え」が「い」に一文字変わったただけで、大きな変化である。

恵田小では、勤めている間に児童数が減少し、統廃合を心配する声が聞かれるようになった。学校が持続可能であるために、学校をさらによい、魅力あるものにし、児童・保護者・地域が、通いたい、通わせたい学校にすることが必要だと考えた。

私は、愛校心を育むこと、郷土愛を醸成すること、子供たちを地域の宝として大切に教育を進めることを常に念頭に置き、学校経営を行った。また、先輩校長から教えていただいた「プラマイゼロからプラスに」という学校経営を実践した。課題であるマイナス面をゼロにするのは時

心を開き、伝わる思い

広幡小学校

教諭 内田 敏明



Aさんは、休み時間になると私のそばに来てよく話をしてくれる。時には、教室の事務机の下に隠れて、私が近くに来ると顔を出し、驚かせることもあった。しかし、Aさんが友達と交流をする場面をあまり見かけることはなかった。

ある日、Aさんの険しい表情から何かトラブルがあったと感じ、Aさんに声をかけた。「どうしたの。Bさんと何かあったのかな。」

と尋ねたが、うつむいたまま口を閉ざしていた。私はAさんの言葉をじっと待った。すると、頬に一粒の涙が流れ、つぐんでいた口が開いた。「何を言えればいいのか分からない。」と自分の気持ちをうまく伝えられないと胸中を明かしてくれた。私は、うん、うんと相づちを打ちながら、「上手に言えなくても大丈夫だよ。」と伝えると、今は、心を開いて話ができる友達がいけないこと、たくさん

と、友達と仲良くするために何と云えばよいか分からず不安になることなど、ゆっくりと話し始めた。

Aさんの気持ちを知った私は、Aさんがたくさんの子供たちと会話ができるように、話題を振って一緒に話す場面を増やすようにした。また、空いた時間に子供たちが関わり合えるレクリエーションを取り入れることにした。Aさんは、始めのうちは緊張した様子もあったが、少しずつ友達と話す姿が見られた。次第に、はにかんだ表情をみせながらも、自分から友達に話しかけられるようになっていた。

二期の学芸会。Aさんは、自分の役作りに一生懸命に取り組みながらも、自分の演技に納得がいけないようであった。しかし、そのことで同じ場面の配役の子供たちに相談する様子はなかった。そこで、練習時間の最後に、友達の演技のよかったところを話し合う時間を設定することにした。最初はなかなか意見を言わなかったAさん。

「Aさん、何か意見はないかな。」と指名すると、

「Cさんの語りかけるようなせりふがよかったです。」
と、友達の良いところを言うことができた。それを言われた子もうれしそうなる表情になることにAさんは気づいたようだ。その後の練習では、演技の中でも友達を褒めたり、アドバイスしたりする姿が見られるようになった。下見の会では、自分の役を堂々と演じると友達と一緒にうれ

しそうに話す姿が見られた。

ところがその後、Aさんはインフルエンザにかかり、学芸会を欠席することになった。きつと落ち込んでいた。そう思ってたAさんの家に電話すると、母親から

「Aは今、クラスのみんなに手紙を書いているんです。」
と教えてもらった。学芸会は参加することができないけれど、級友を励ましたいというAさんの気持ちに、私は胸が熱くなった。

学芸会直前の静まり返った教室で、私はAさんからの手紙をゆっくりと読み上げた。「本番で緊張している子もいるかもしれないけれど、絶対できる。応援しているからがんばってほしい」それを聞いた子供たちの顔が引き締まったように感じた。私は「みんなと一緒に出演したかったAさんの気持ちに伝えよう」そう話して子供たちと体育館に向かった。その日の演技は、これまでで最高のものとなった。

数日後、登校したAさんの周りには、自然と友達が集まっていた。



間がかかるが、別の価値あるプラスを加えて、全体でプラマイゼロにし、プラスが上回るようになれば、プラスに転じるという発想である。

プラスとして、周年行事を活用した愛校心の育成、地域とともに行う行事や教育活動、ふるさと学習による郷土愛の醸成、児童や保護者、地域、教職員のきずなづくりに取り組み、学校関係者評価委員会での地域からの提言を生かした。

三河一の大規模校である本校に異動するとともに、コロナ禍により、学校経営の在り方、学校の存在価値までも見直しに迫られた。休校措置、密を避けるための学習活動の制限、行事等の中止など、マイナス面が増えた。大規模校ゆえの課題は大きくなり、長期欠席の心配も増加した。

前任校と同じように、プラスとして、愛校心を育むこと、ふるさと学習、きずなづくり・居場所づくりの活動に取り組んだ。新たに、校内フリースクールの設置、特別支援教育の充実、相談活動の見直しも行った。コロナ禍を脱しつつあるが、その影響は大きい。単純にコロナ前には戻せない。授業や行事の進め方を工夫したり、新たな長期欠席対策を講じた。工夫し、学校経営を進めている。

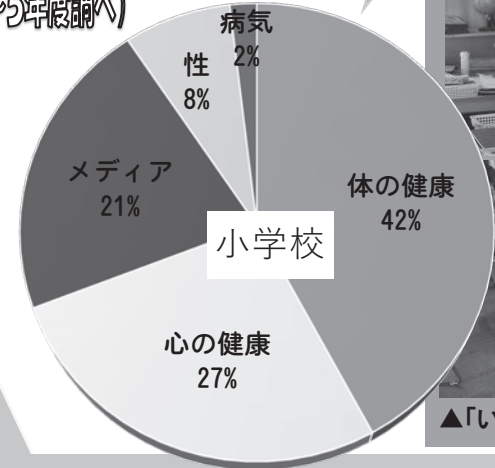
学校保健委員会 — 子供を取り巻く諸問題に対応した各校の取り組み —



▲「たくさん動いてけが予防」(六ツ美北部小)

委員会のテーマ

(5年度調べ)



▲「いっしょに学ぼう！目の健康」(上地小)

体の健康

〈小学校のテーマ例〉

- ・正しい姿勢で心も体も元気になろう
- ・連尺っ子 体力アップ大作戦
～外遊びで楽しく体力アップ！～
- ・足から健康な体づくり

〈中学校のテーマ例〉

- ・朝の生活プロデュース大作戦
～朝をスッキリ過ごすために～
- ・もっと健康な矢北中生に
「食で元気に！」リーガーから学ぶ元気ごはん



▲「困難に負けない力(レジリエンス)を育てよう」(広幡小)

「レジリエンス」とは、様々な捉え方があるが、一般的には「逆境から素早く立ち直り、成長する能力」と定義されている。レジリエンスの向上を図ることは、心の回復力や柔軟性を高めることにつながる。

〈小学校のテーマ例〉

- ・周りの人たちとの上手なかかわり方
- ・気づいて よりそい つながる いのち
～自分や友達がつらいときのために知っておきたいこと～

〈中学校のテーマ例〉

- ・「長所と短所の初耳学」私は私でよかったな！
～生きづらさを感じた時の対処法～



▲「みんなでつなごうあったかハート」(北野小)

学校保健委員会は、健康課題を研究協議し、健康づくりを推進する役割を担っている。各学校は、様々な課題に適切に対処するため、家庭、地域社会等の協力を得ながら、子供たちのよりよい学びにつながるよう、学校保健委員会を機能させていくことに努めている。

子供を取り巻く社会環境や生活様式の変化に伴い、健康課題は複雑多様化、深刻化している。とりわけ昨今では、情報化社会の伸張やコロナ禍によって、メディアとの付き合い方や体力の低下、他者とのつながりの希薄化などが問題視されている。このような現状を踏まえ、各校がそれぞれの健康課題に対するテーマを据えて、学校保健委員会を行っている。

市保健主事会の調べによると、学校保健委員会のテーマは、小・中学校共に「体の健康」と「心の健康」を柱にした内容が半分以上を占めた。「体の健康」では、睡眠、姿勢、怪我予防など、コロナ禍で崩れがちになった生活リズムや体力面の改善をねらう内容が多くみられた。「心の健康」では、自己肯定感やコミュニケーション、ストレスに関する内容が多く取り上げられていた。特に「レジリエンス」心の回復力」という、ストレスとの関わり方における新たな考え方や、「性」における「LGBTQ+」、「薬物」では「オーバードーズ」など、社会的に話題となっているものにも積極的に取り組む学校があった。また、ゲストティーチャーを呼んだり、体を動かしたり、チームで話し合ったりするなど学びを深める様々な工夫があった。

子供たちが生涯に渡り、自ら健康で安全な生活を送るため、子供を取り巻く諸問題を適切に捉え、生きる力を育む学校保健委員会を目指したい。

薬物



▲「薬物乱用防止教室
～岡崎警察署スクールサポーターを招いて～」(六ツ美中)



各校の学校保健 (令和3年度)



課題	割合
体の健康	31%
心の健康	23%
性	20%
メディア	12%
薬物	8%
病気	6%

性



▲「多様な性について考えよう ～ LGBTQ+ ～」(美川中)

＜小学校のテーマ例＞

- ・ぼく、わたしはどこから来たの？～性の健康調査～
- ・性の健康と安全の科学～自尊感情を育むために～

＜中学校のテーマ例＞

- ・性の多様性について知り ALLY（よき理解者）になろう
- ・生と性を考える思春期教室
～かけがえのない大切な命・育もう優しい心～

心の健康



▲「自分を大切にする いのちを大切にする
～病棟道化師ポッチ☆アダムスさんを招いて～」
(河合中)



●令和六年度の研究発表校

本年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が三校である。

○市委嘱研究発表校

・岡崎市立六ツ美北中学校

研究主題

共に学び 共に磨き 共に生きるー自他と向きあう自律活動とムツキーコンパスを軸とした授業を通してー

研究発表会

十月二十三日(水)

・岡崎市立根石小学校

研究主題

自他を敬愛し、互いに支え合おうとする子供の育成ー共生を取り入れた学習指導を通してー

研究発表会 十月三十日(水)

・岡崎市立美合小学校

研究主題

学びと学びをつなぎ、学びと生活をつなぐーSTEAM教育の実践を通してー

研究発表会 十一月六日(水)

・愛知教育大学附属特別支援学校

研究協議会 十一月八日(金)

・愛知教育大学附属岡崎小学校

研究協議会

十一月十三日(水)

●小中学校のようす

令和六年度岡崎市内の小中学校の概要(五月一日現在)である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が七名の減少で、中学校が三名の増加となった。通常の学級数は、小学校は七学級増加、中学校は三学級増加である。特別支援学級数は、小学校が八学級増加、中学校は四学級減少である。

岡崎市内の小学校の全児童

数は、三二二名減少し、中学校の全生徒数は、五十六名増加した。総数では、二六六名の減少となった。

教員数は、十五・五名(再任用ハーフは〇・五人としてカウント)の増加となった。

市任期付教員は十三名、再任用教諭は六十三名(再任校長含む)(実数)である。

教員補助は二七一名、そのうち十八名は養護教諭支援員である。また、「ラーケースヨンの日」導入に伴う事務負担軽減のためモデル事業として

昨年度に引き続き配置された校務支援員は、六十四名である。小学校英語指導補助者(ST)は二十六名、外国語指導助手(ALT)は、三十二名である。



●学年別児童・生徒数(人)(令和六年度5月1日現在)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,705	1,657	1,802	1,828	1,861	1,907	1,843	1,929	1,976
女	1,613	1,694	1,804	1,689	1,728	1,805	1,834	1,832	1,769
計	3,318	3,351	3,606	3,517	3,589	3,712	3,677	3,761	3,745

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	450人	559人
通常学級数	740学級	316学級
特別支援学級数	201学級	68学級

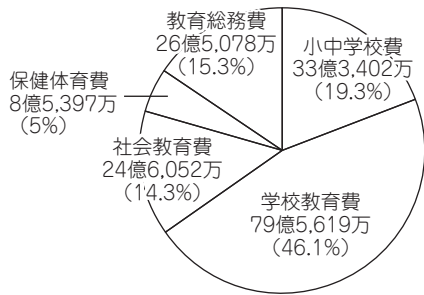
●児童・生徒・教職員数(人)(令和六年度5月1日現在)

区分	学校数	学級数 (内特別支援)	児童・生徒(人)			校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用講師(欠員補充)を含む (内市任期付)	栄養教諭・職員(人)	事務職員(人)	養護教諭(人)
			男	女	計				
小学校	47	941 (201)	10,760	10,427	21,187	1,274 (13)	8	61	50
中学校	20	384 (68)	5,748	5,435	11,183	703	4	29	22
合計	67	1,325 (269)	16,508	15,862	32,370	1,977 (13)	12	90	72

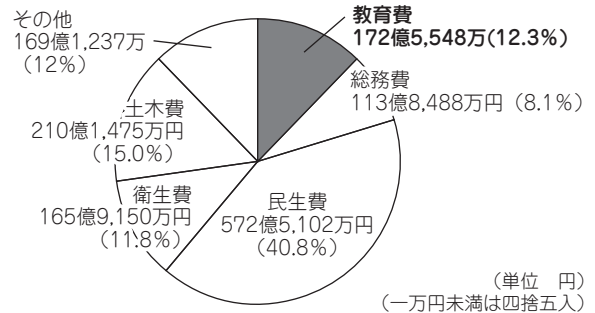
(再任用ハーフは0.5カウント)

令和6年度 岡崎市の教育予算

〈教育費の内訳〉 令和6年度 172億5,548万



〈一般会計予算〉 令和6年度 1,404億1,000万



(単位 円)
(一千万円未満は四捨五入)

◆ 令和6年度 主な新規・拡充事業

○全市立小学校2・3年生の普通教室に電子黒板を整備

- ☆全市立中学校、小学校上学年に加え、小学校2・3年生の普通教室に電子黒板を整備
- ☆一人一台タブレット端末等と連携し、子供の学びを他とつなぐ「学びのインターフェイス」としての役割を果たし、誰一人取り残さない学びの実現を目指す。

○少人数学級の実施

- ☆令和5年度は小学校1年生において32人学級が設置。令和6年度は小学校2年生で32人学級を実施。
- ☆少人数学級の実現により、個別最適な学びの促進や、いじめや長期欠席などの課題の減少などの効果が期待できる。

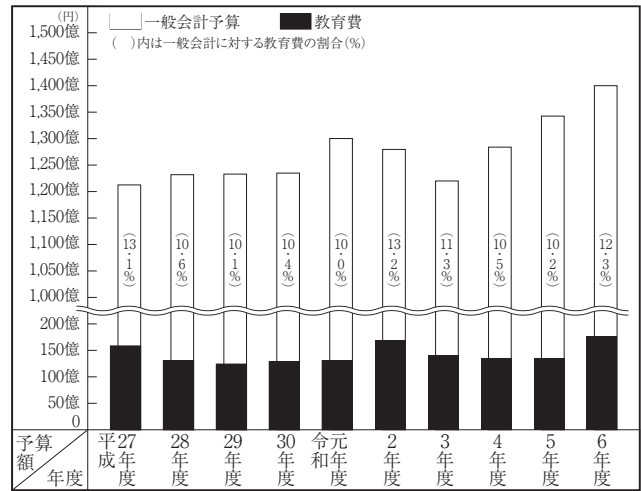
○校内フリースクールを市立小学校3校に設置

- ☆全市立中学校に加え、小学校3校にフリースクールを設置。
- ☆児童生徒の多様性への対応による長期欠席の未然防止
- ☆教室復帰だけでなく、社会的な自立を目指した支援の充実。
- ☆校内フリースクールを利用する児童・生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
- ☆個の状況に応じた指導や配慮の充実。

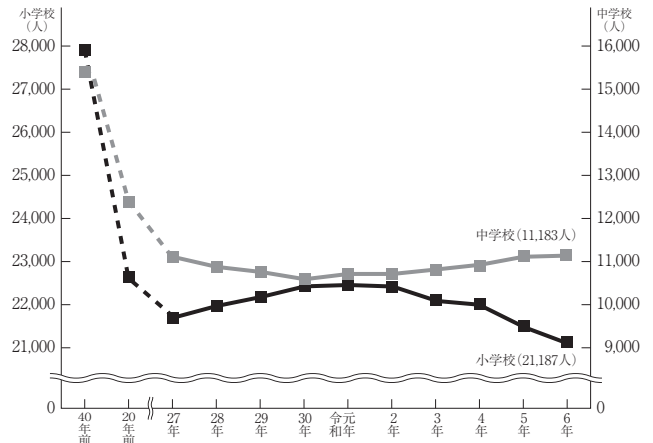
○夜間学級を市立中学校5校に設置【新規】

- ☆他の生徒がいる時間帯には登校できない生徒、家から出ることが難しい生徒の自立支援。
- ☆夜間学級を利用する生徒の自己肯定感や自尊感情の向上。
- ☆校内フリースクールの開設時間を拡大し、個の状況に応じた指導や配慮の充実。(週1回2時間程度)

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移 (数字は毎年5月1日現在)



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

男
川
小
宮
田
朱
里

ピアノ關鍵式 (昭和59年)

写真提供：上地小学校



上地小学校は、昭和五十八年四月に開校した。翌年の二月に体育館が完成し、三月に行った学芸会では、学区の方を招き、新しく入ったピアノを披露した。

完成したばかりの体育館には、体育科で使う用具、校歌を奏するためのピアノすら無く、教育活動をする上でとても大変であった。そこで、備品としてピアノが入り、学芸会では、各学年・学級の演目で、大活躍であった。その後も、卒業式や入学式では迫力ある伴奏で、校歌や思いのこもった歌を歌うことができるようになった。

教育効果を上げるためには、教育環境を整えることが大切である。子供たちのために、施設や設備を充実させていきたい。

時と共に変化してきた仏壇。祖父母と一緒に手を合わせていた頃は、手と手合わせることの大切さを自然と教えられていた。核家族が進んだ今、子供たちが仏壇に手を合わせるの、祖父母の家に行ったときぐらいかもしれない。生活の中から手を合わせる機会が減りつつある。今一度手を合わせる真意を考えたい。

ど ホ ツ

水無目



▲お田植えまつり(六ツ美南小)

本気で挑みたい。子供たちの力強い眼差しから部活動への熱い思いを感じる。地域移行に向けて動き出し、一年が経った。子供たちのために、今後さらに顧問と部活動指導員の連携が重要となる。まもなく、中学三年生にとって最後の大会やコンクールが幕を開ける。子供たちが輝くために、よりよい部活動の在り方について私たちは力を尽くす。

「付き合い方」が大切だ。人との自分自身との、正しい付き合い方。そんな中、近年注目されているのがストレスとの付き合い方だ。ストレスを跳ね返す心の強さだけでなく、ストレスを受けたところからいかに立ち直るかという視点で、ストレスとの付き合い方を考える。「心の柔軟性・心の回復」を、子供たちに養いたい。



*新版 学校を改革する
岩波ブックレット

佐藤 学
¥693

心に残った一文

私は「学び合う関係」を「さりげない優しさの関係」と表現している。

チーム学習を実践していく中で、子供たちが「学び合う関係」を築くのは難しいと私は考えていた。だが「ねえ、ここどうするの」という問いから学びが始まると、チームの雰囲気は優しく温かい空気に包まれていく。そして、互いに安心した関係性が築かれ、わからない子供とわかっている子供の両方に恩恵をもたらす互恵の関係が生まれていく。

私たちもお互いを尊重し、何事にも助け合える優しさをもちながら「学び合う関係」をさらに深めていきたい。

*LIFE SHIF Rグラットン/Aスコット
東洋経済新報社 ¥1,800

*日本人のしつけは衰退したのか
広田 照幸 ¥640

講談社現代新書

*恐れのない組織 E・C・エドモンドソン
英治出版 ¥2,200
城南小学校 二村 久